

Q uestion

社内外の見えない壁を取っ払って、
将来のDKSを支える研究開発を担う！

京都中央研究所の役割と課題を教えてください



正司 武嗣 Takeshi Shosu
執行役員 京都中央研究所長 弁理士

2025年4月、中期経営計画「SMART 2030」実現に向けて研究開発組織が再編されました。研究部門はそれまでの研究本部という大所帯から、事業部内研究部隊と、経営直轄組織として新

設された京都中央研究所と生産技術研究所になりました。

お客さまと一緒に、3年以内の製品化という喫緊の課題に対応するのが、営・研一体となった各事業部の研究部門。一方、私たち京都中央研究所は、各事業部から預かった3～10年の中長期テーマや研究自動化などの部門横断テーマ、また新規事業育成テーマなど、未来のユニ・トップ製品のための研究開発を行っています。このように組織別に取り組むテーマを分けることで、開発期間の短縮と将来のための研究開発を両立させ、事業効率と競争力の向上を図

ています。

生産技術研究所が開発と生産をつなぐ「ハブ」としての機能を持つのにに対し、京都中央研究所は研究部門間の連携という横串機能も担っています。また、第一工業製薬は将来どうあるべきかを構想し、グループの研究員全員の能力を将来の成果に結びつけるお手伝いをすることも重要な役割。大切な資源、限られた研究リソースをどのように配分するかといった研究全体のマネジメントも当研究所が担う役割のもうひとつの側面です。

さらにももしろいテーマにチャレンジできるよう
新しいチャンスや普段できない経験と機会を提供したい！



DKSの研究開発の中核・京都事業所
1Fの卓球場で心身をリフレッシュすることも



6Fにある「C-Base」は議論、交流、リラックスと
多様に使えるオープンスペース



挑戦やイノベーションをテーマにした書籍は閲覧自由
若手研究員の利活用も多い



若手研究者との座談会を終えて



A nswer

新製品化率は当初目標達成！
高い水準で維持・向上を

研究の確度と速度を高め、DKSの製品に付加価値を

「社内外連携とユニトップ」

人財を大切にすることにおいて、研究者のスキルは自己成長のため、企業成長のための尺度です。研究員のスキルマップ(各人のスキルを可視化したもの)の活用について人事部門と調整しています。研究者自身にとっても役立つものにしたいと思っています。

また、当社ウェブサイトのリニューアルを機に、研究者自身がコンテンツを作る機会を大幅に増やしました。以前、知財部門長として当社の技術を俯瞰的・客観的に見る仕事をしていた時に、「もっと技術をうまく発信できれば、より多くのお客さまと新しい技術、製品、事業を生み出せるのではないか」と感じていたからです。ほかにも、事業化の速度と確度を高めるために、管理部門との連携も強化しています。

当社には、長きにわたって蓄積されてきた技術という財産があります。オリジナリティのある当社の技術を、社内外の技術と融合させれば、誰にも真似できない技術になります。研究所6階と本社3階の協創スペースから、どんどん新しい技術・事業を生み、育てたい。今の目標の1つです。

「DKSとサステナビリティ」

技術の融合は環境貢献型製品にも強みを発揮します。古くから天然原料を使いこなし、サステナビリティと非常に親和性のある技術を多く保有する当社では、これまでも環境貢献型製品を多く生み出し、環境貢献と利益性の両立を実現してきました。今後も受け身としてサステナビリティを考えるのではなく、「サステナビリティ推し」で研究開発を進め、社会や環境の課題解決をお客さまと一体となって実現したいと考えています。

「人財とチャレンジ」

当社の研究員の人員構成は34歳以下のメンバーが3分の2を占めます。この若さが、技術の継承などの面で「弱み」になるのでは、と懸念していましたが、スキルマップから、先輩方のスキルはしっかりと継承されていることがわかりました。むしろDXなど、今後重要になってくるスキルを獲得しているのは若いメンバーが多い。今の年齢構成は当社の「強み」になる、と確信しています。マネージャー層、ベテラン陣が背後に構えていることも大きいです。

「SMART 2030」では“チャレンジ”がキーワードのひとつ。失敗を許容し、個性を発揮できる企業風土が形成されつつあります。積極的にチャレンジを続けていけば、10年後には必ずおもしろい結果が出る。すでに成果は見え始めています。そのための機会を提供するのがマネージャーの仕事。人事制度や教育を通じて成長を後押ししていきたいと思っています。

京都中央研究所内の体制



DKS人材のスキルヒートマップ (2026年3月 単体)

	20代	30代	40代	50代	60代以上	配置密度
2000年以前からの技術	少	多(充実)	多(充実)	多(充実)	多(充実)	少 多(充実)
成長産業向けの技術	多(充実)	多(充実)	多(充実)	多(充実)	多(充実)	少 多(充実)
データサイエンス	多(充実)	多(充実)	多(充実)	多(充実)	多(充実)	少 多(充実)